

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回川越市健康づくり推進協議会
開催日時	令和6年7月26日（金） 午後1時30分 開会 ・ 午後2時30分 閉会
開催場所	川越市保健所 2階大会議室
議長（委員長・会長）氏名	会 長 松本 吉郎
出席者（委員）氏名（人数）	副会長 村田 一男 委 員 宮山 徳司、西村 早苗、金井 進、須田 弘子 清水 克子、三戸 まさみ、宇津 和高、本木 春男 長峰 す美子、米原 民子、松本 清一、志村 洋子 森田 繁子、矢部 孝、江尻 旬子 （17名）
欠席者（委員）氏名（人数）	委 員 深井 智子、鶴田 淳子（2名）
事務局職員氏名	部長 若林 昭彦、課長 千葉 幸子、副課長 清水 克彦 副主幹 関根 広美、主査 小高 久美子、主査 矢島 敬子 主査 高橋 舞子
会議次第	1 開会 2 議題 （1）会長の選出について （2）副会長の選出について （3）川越市の健康課題について （4）（仮称）健康かわごえ推進プラン（第3次）骨子について （5）目指す姿（スローガン）について （6）（仮称）健康かわごえ推進プラン（第3次）策定に係るヒアリングの実施について 3 その他 4 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 川越市健康づくり推進協議会条例 ・ 資料1 川越市の健康課題について ・ 資料2 「（仮称）健康かわごえ推進プラン（第3次）」骨子（案） ・ 資料3 目指す姿（スローガン）について ・ 資料4 （仮称）健康づくり推進プラン（第3次）策定に係る関係団体ヒアリング調査の概要（案） ・ 参考資料1 （仮称）健康かわごえ推進プラン（第3次）骨子追加資料 ・ 追加資料2 （仮称）健康かわごえ推進プラン（第3次）の全体像（案） ・ 当日配布1 熱中症に注意しよう（子ども） ・ 当日配布2 熱中症に注意しよう（乳幼児保護者） ・ 当日配布3 熱中症に注意しよう（一般） ・ 当日配布4 熱中症に注意しよう（高齢者）

議 事 の 経 過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
司 会	1 開会
仮 議 長	2 議題 (1) 会長の選出について 互選により、松本委員を選出
議 長	(2) 副会長の選出について 互選により、村田委員を選出
事 務 局	(3) 川越市の健康課題について 資料1に基づき説明 (質疑応答は特に無し)
事 務 局	(4) (仮称)健康かわごえ推進プラン(第3次)骨子について 資料2、参考資料1・2に基づき説明 (質疑応答)
委 員	健康日本21(第3次)計画の策定にあたって、国も埼玉県も自立期間や自己実現期間の延長を掲げ、すべての人にそのチャンスがあると述べています。そのような中で、川越市の計画では、第2次計画の段階から育ちの世代から稔りの世代までの経過を経て、約束事を定め、を実行していただきと呼びかけいる。 骨子案の第4章では、基本理念として①市民が主体の健康づくり、②地域や職場で取り組む健康づくり、③持続可能な健康づくりを掲げており、これは極めて適切だと考えている。国もライフコースアプローチを現在推奨しているため、これを中心に考えていく必要があると思う。 WHOも認める日本の素晴らしい健康管理システムがあるが、1つ大きな問題がある。就学前は母子健康手帳、就学中は学校保健法、就業中は労働安全衛生法や労働衛生に関する法律が適用され、高齢期になるとまた別のシステムができるため、すべてが分断されており、1人の方のデータを継続して追うことができず、積み重ねることができないというのが現在の日本の遅れです。システムの何とかしたいと国も考えていると思うが、その視点を

	<p>次期計画においてどうするか常に注意を払い、マイナンバーカードの活用など国レベルの構想の中でも対応できるような形で、心構えをしておいていただきたい。</p>
事務局	<p>12年間の計画なので、書き方を考えなくてはならないが、施策を展開していく中では、マイナンバーカードやICTの活用などの視点を取り入れていきたい。</p>
事務局	<p>(5) 目指す姿（スローガン）について 資料3に基づき説明</p> <p>(質疑応答は特に無し)</p>
事務局	<p>(6) (仮称)健康かわごえ推進プラン(第3次)策定に係るヒアリングの実施について 資料4に基づき説明</p> <p>(質疑応答は特に無し)</p>
	<p>4 その他</p> <p>(委員からの意見等)</p>
委員	<p>ライフコースアプローチについて考えると、現状はライフステージごとに分断された取り組みが行われており、縦割りの状態が続いている。学童期に入ると学校内での情報は豊富だが、それ以前の状況や、その後大人になってから教育されたことがどのように生かされるのか、実感を持ってないという声を学校関係者から聞いた。働きかけの結果は、必ず大人になってから知識や体験を振り返り、健康行動に繋がることわかっていく。ライフコース全体を考えたとき、どの段階でどのように取り組むべきか、先の問題を解決するためには、現在の問題に取り組むだけでなく、もっと前の段階での対策が必要と考える。また、その評価は後でも良いのではないかと考え、このような働きかけだけでなく、情報共有をもっと進めるべきだと思う。</p> <p>マイナンバーカードなどのデータが集約される中で、こうした会議にはさまざまな組織の方々が参加しており、横のつながりや縦のつながりを持つ機会になると思います。皆で情報を共有できれば良いと考えている。例えば、自分の団体の立場でできること</p>

委員	<p>を考えることが重要で、この協議会の活かし方をここで決めるのも良いし、意識した活動の取り組み方を文章に盛り込むのも良いと思う。</p> <p>目標には出ないかもしれないが、冊子を作るのであれば、組織としての考えを反映させられると良い。例えば、最初の資料1の説明は非常に丁寧だったが、どの年代の問題なのかは明確ではなかった。女性の自殺が多い現状において、問題解決にはそれぞれのライフステージでの問題を把握し、どの段階で関わるべきかを考えることが重要。このような視点を持つことで、結果的に改善に繋がると思う。情報を共有することで、状況は変わると思う。</p> <p>他市の計画を見ると、例えば松山市は、計画の中でライフコースアプローチを踏まえた健康づくりを目標値として定めており、小学校5年生と中学校3年生のときに飲酒を経験し、そのときの状況が将来に関係していると記されてる。他の中核市の計画にもライフコースアプローチの視点が取り入れられているため、これらを参考にすることで、川越市の計画も充実してくると思う。</p>
委員	<p>健康データは非常にデリケートな性質を持っている。特に、現在マイナンバーカードや保険証によって、すべてのデータが集約されることで、近い将来データの宝庫になる。しかし、データを利用する際にはさまざまな障害が発生する可能性がある。</p> <p>最初の段階として、自分自身が自分のデータを確認できるようになることが重要です。他人がそのデータを見ることは、なかなか難しい部分があると思う。マイナンバーカードで蓄積されたデータについては、何かの機会があれば自分がすべて読み取ることができる仕組みを作る必要がある。これにより、すべての人々の関心を高めていくことが求められ、順次進めていかなければならない大きな問題だと考えている。</p>
事務局	<p>この協議会は、健康づくりに関して、関係団体が持つ情報を共有し、審議する会議体である。今回は計画の策定が最優先となるが、今後は皆さんのための共有の場も考えていきたい。また、計画についてもこれから審議が進むと思うので、その点も取り入れていきたい。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策について説明

・骨子案の補足について
資料2に基づき説明

5 閉 会